

- * 私が差し出せるのは 血と労苦と涙と汗のみである。
W.チャーチル、下院での就任演説にて、1940年5月13日
マーティン・ギルバート「チャーチルは語る」 (2021.4.29.)

- * 民主主義はとんでもなくまずい統治形態だ。欠陥だらけで間違いやすく、非効率で、腐敗しやすい。だが、他のどの形態よりもましなのだ。 W. チャーチル
ヤニス・バルファキス「父が娘に語る経済の話」 (2022.5.15.)

- * 善をなすは尊く、善をなすを教えるはさらに尊し、しかも何ら苦労はなし。
マーク・トウェイン (チャーチルへの自作献呈本の中の言葉)
マーティン・ギルバート「チャーチルは語る」 (2021.6.19.)

- * 勝者なき平和でなければならない。勝者も敗者もない平和だけが長続きするのだ。
ウイルソン大統領
半藤一利「世界史のなかの昭和史」 (2021.8.17.)

- * 国家と民族。これはまったく別物だ。戦争は政治家や政府によって準備され、引き起こされ、企てられる。しかし、死ななければならないのは、数百万の普通の人々だ。
レフ・コペレフ (ロシア人作家) 1981年
クラウス・コルドン「ベルリン 1945 下巻」 (2022.4.13.)

- * 戦争というものは、誰かが望んだ時に始まるが、しかし、誰かが望んだ時に終わるものではない。 マキャベッリ
天声人語 (2022.6.16.) (2022.6.16.)

- * 資本主義を破壊する最善の方法は、通貨を墮落させることだ。
レーニンの言葉として、ケインズが紹介した警句
天声人語 (2022.3.1.) (2022.3.2.)

- * 幸福になるにはそれを求めないことだ。幸福は美しい蝶のようなものだ。追えば追うほど逃げていく。しかし、別のことに気を取られていると、そっと、肩に止まっている。
ヘンリー・ディビッド・ソロー
ヤニス・バルファキス「父が娘に語る経済の話」 (2022.5.15.)

- * あらゆる悲しみは、それを物語に変えるか、それについて物語れば耐えられる。
 イサク・ディネセン、デンマークの作家 (New York Times, Nov. 3, 1957)
 ハンナ・アーレントの引用「アーレント読本」 (2022.6.11.)
- * 言葉は人を不幸にし、怒らせ、他者を憎ませたりするが、同時に人を和解させ幸福にも出来る。
 ブレディ・みかこ「他者の靴を履く」 (2021.12.23.)
- * 女を知るとは歴史の真実を知ること。ある時代をよく知ろうと思ったら、その時代の女たちをよく調べるとよい。 ゲーテ
 塩野七生「ルネッサンスの女たち」 (2022.10.26.)
- * 男とつき合わない女は色褪せる 女とつき合わない男は馬鹿になる チャーホフ
 茨木のり子集 言の葉2 「金子光晴—その言葉たち」 (2022.6.30.)
- * 限りなく恋人に近い友だち。それが男と女のいい関係。
 加藤登紀子の “ひらり一言” (2019.12.1.) (2022.11.19.)
- * わたしは貧しく育ったけど、いやしくは育っておりません。 豊田正子
 随想「綴り方に書けなかったこと」～「新編・十代に何を食べたか」所収
 「折々のことば」2021.12.21. (2022.11.21.)
- * 世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう。
 レヴィ・ストロース「悲しき熱帯」
 福島申二「斜影の森から」(2022.2.25.) (2022.3.12.)
- * 人の世に熱あれ、人間に光あれ！ 水平社宣言・最後の言葉
 全国水平社創立 100 周年を記念して、2022 年 3 月 3 日、京都市岡崎公会堂にて
 (2022.6.5.)
- * 人生はたかが歩く影、哀れな役者だ マクベス・5 幕 5 場 24
 天声人語・(2022.10.25.) (2022.11.11.)

Life's but a walking shadow, a poor player
 That struts and frets his hour upon the stage
 And then is heard no more.

アガサ・クリスティー作品の原詩

* 春にして君を離れ (Absent in Spring)、1944 年作

シェークスピア・ソネット集、岩波文庫（高松雄一訳）98 番

春のあいだ、私は君から離れてすごした
色あざやかな四月が晴着に着飾り

From you have I been **absent in spring,**

When proud-pied April (dressed in all his trim)

あらゆるものに青春の息吹を

ふきこんだので

Hath put a spirit of youth in every thing,

陰気なサートウルヌスさえ、

笑い声をあげて

That heavy Saturn laughed and leapt with him.

(後 10 行省略)

注：1609 年に出版された。ソネットは、ルネッサンス期にイタリアで創始された 14 行からなる定型詩。

* 終わりなき夜に生まれつく (Endless Night)、1967 年作

ウィリアム・ブレイク・「無垢の予兆」(Auguries of Innocence) 124 行目

参考：関東学院大学人文学会、紀要 137 号 (2017) 安藤 潔

夜ごと朝ごと	119	Every Night & every Morn
みじめに生まれつく人もいれば	120	Some to Misery are Born
朝ごと夜ごと	121	Every Morn & every Night
甘やかな喜びに生まれつく人もいる	122	Some are Born to sweet delight
甘やかな喜びに生まれつく人もいれば	123	Some are Born to sweet delight
終わりなき夜に生まれつく人もいる	124	Some are Born to Endless Night

注：ウィリアム・ブレイク：18 世紀のイギリスの詩人、画家、銅版画職人。

ブレイクの詩に 1916 年、ヒューバート・パリーによって曲が付けられた「聖歌・エルサレム」は、第二の国歌として知られている。2012 年のロンドン・オリンピックでも、“God Save the Queen”に次いで歌われた。(2022.6.29.)

* あなたの庭はどんな庭? (How Does Your Garden Grow?)

短編集「黄色いアイリス」1939 年作

マザーグース；「メアリー、メアリー、ひねくれメアリー」

(Mary, Mary, Quite Contrary)

メアリー　メアリー　ひねくれメアリー	Mary, Mary, quite contrary,
お庭は　どんなでしょう？	<u>How does your garden grow?</u>
ホラ　かいがら　かざって　銀のベルつけて	With silver bells and cockle shells,
きれいな　むすめも　ならんで	And pretty maids all in a row.
ホラ　きれいな　むすめも　ならんで	And pretty maids all in a row.

注：鷺津名都江「マザーグースのうた①」⑩ より収録

イギリスでは、ガーデニングをしている女性を見かけると、口ずさむ歌。

(2022.10.28.)

折々のうた 2022 年 梅津寿一編

茨木のり子の詩 2 編

* 根府川の海

根府川

東海道の小駅

赤いカンナの咲いている駅

たっぷり栄養のある

大きな花の向こうに

いつもまっさおな海がひろがっていた

中尉との恋の話をきかされながら

友と二人ここを通ったことがあった

あふれるような青春を

リュックにつめこみ

動員令をポケットに

ゆられていったこともある

(中 19 行省略)

女の年輪をましながら

ふたたび私は通過する

あれから八年

ひたすらに不敵なところを育て

詩集・対話（初出・詩学、1953.2

* 小さな娘が思ったこと

小さな娘が思ったこと
ひとの奥さんの肩はなぜあんなに匂うのだろう
木犀みたいに
くちなしみたいに
ひとの奥さんの肩にかかる
あの淡い靄のようなものは
なんだろう？
小さな娘は自分もそれを欲しいと思った
どんなきれいな娘にもない
とても素敵な或るなにか……
小さな娘がおとなになって
妻になって母になって
ある日不意に気づいてしまう
ひとの奥さんの肩にふりつもる
あのやさしいものは
日々
ひとを愛してゆくための
ただの疲労であったと

詩集・見えない配達夫（初出・婦人生活、1958.3）

河野裕子・永田和宏 短歌5首

- * ブラウスの中まで明るき初夏の日に
けぶれるごときわが乳房あり 裕子 「森のように獣のように」
- * 白梅に光さし添いすぎゆきし
歳月の中にも咲ける白梅 裕子 2010年歌会始選者・披講歌「光」
- * 歌は遣り歌に私は泣くだろう
いつか来る日のいつかを怖る 和宏 「夏・2010」
- * わが知らぬさびしきの日々を生きゆかむ
君を思へどなぐさめがたし 裕子 死後薬袋に書きつけられた歌
- * 相槌を打つ声のなきこの家に
気難しくも老いてゆくのか 和宏 「夏・2010」

* うらうらと春来て街に老人の

多しと思うはわれ老いしゆえ 岩切久美子（70歳をこえる老婦人）

河野裕子「わたしはここよ」文中より収録。+

河野裕子短歌賞・グランプリ 2首

* 雨上がり世界を語るきみとみて

つづきは家族になって聞こうか （一般）岐阜県・太田宣子

* 干からびたカエルをよけてすすみゆく

ばいばい、わたしは夏をのりきる （中高生）鳥取県、鳥取東高校・石名萌

朝日新聞夕刊（2022.3.9.）

注：この短歌賞は産経新聞主催で、2022年2月、第10回で終了した。

富士山（不尽山）を詠んだ歌（万葉集・巻3）

* 田子の浦ゆうち出でて見ればま白にそ

富士の高嶺に雪は降りける （318） 山部赤人

* 富士の嶺に降り置きし雪は六月（ミナヅキ）の

十五日（モチ）に消（ケ）ぬればその夜降りけり （320） 赤人

* 富士の嶺を高め恐み（カシコミ）天雲も

い行きはばかりたなびくものを （321） 高橋虫麻呂

注：3年ほど前からコノハナサクヤビメ（富士山）を見てあの世に行きたいと思っていたところ、去る11月12日―13日と娘たちが富士吉田のホテルに連れて行ってくれました。美女は気難しいといいますが、化粧雪もなく、顔も朝のうちしか見せてくれず、まあまあのところでした。そこで、万葉集の歌を3首（短歌のみ）収録。

（2022.11.25.）

（2022.11.25.）梅津寿一記